



(日本共産党)

なんこう あきお 議員  
南口 彰夫

## 1、住宅リフォーム助成 制度の創設について

### 問

この制度は、住宅をリフォームする時、市が工事費の一部を助成するものです。この事業は、市内の建築関連業者のみならず、食品、衣類などあらゆる業者に経済効果、経済波及効果をもたらし、経済の循環は、市税の増収も期待でき、市の活性化につながるものです。この制度の創設について、市長のお考えをお尋ねします。

### 答

この制度の内容や有効性について調査検討をしております。助成額に対する工事費総額で言うと、15〜20倍の経済波及効果があることも承知しております。従いまして、関係課で協議を行い、来年度の新規事業として実施

できるように指示をしています。

## 2、住宅・工業団地の 販売促進の現状と今後 の課題について

### 問

土地開発公社が持つ住宅地が売れ残っています。早期に売却し、市の固定資産税の増収につなげ、その市税を福祉・教育・医療の財源にするといった当初の計画は、今どうなっているのか、お尋ねします。

### 答

住宅の販売促進策として、新聞広告、販売促進のキャンペーンなどをしたり、住宅メーカーを訪問して要請をしたりしていますが、地価下落で土地開発公社と民間との差がなくなってきたことや、不透明な日本経済の状況で、住

宅の新規建設需要が落ち込みました。

土地の売却処分が進まなければ根本的解決にはならないので、これまで以上に販売促進に取り組めます。

工業団地の販売促進の現状は、約67%が工場の稼働もしくは稼働予定です。

昨年、金属加工メーカーの企業の誘致に成功しましたので、今後



販売中の住宅団地

も企業誘致成功のため、あらゆる努力を惜しまない覚悟です。

## 3、新年度予算について

### 問

東日本大震災や原発事故などの発生で国の交付金等の予算が削減されると思いますが、市民の気持ち・意見を踏まえてのまちづくりの方向と決断についてお尋ねします。

### 答

第一次美祿市総合計画に基づいて予算編成をします。

基本目標は「安全・安心の確保」で、特に重要なものは、「二つの病院の存続」です。

次に「公共交通の充実」で来年度には、美東・秋芳地域と美祿駅を結ぶアンモナイト号の運行を検討しています。

教育・福祉・産業・地域活動など、人の育成が必要であり、新年度におきましても、市民の要望・要求を的確に把握して福祉の増進に繋がる事業を考えて予算編成をして参ります。



(純政会)

ふせ ぶんこ 議員  
布施 文子

### 1、旧産炭地麦川地区の諸問題とその対策について

**問** 約7年前、於福上で庭に止められた乗用車が1台、2m近く地下へ落下したことがあります。坑道マップを配布し、日常の監視、チェックが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

**答** 坑道の崩落が原因と思われる被害が発生した場合は、まず市に連絡をいただきまして、市から独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構（通称ネド）へ通報するということが定められています。

坑道マップの作成は、ネドに問い合わせましたところ難しいという回答がありました。地域の安全・安心のためにもネドとの協議をしていこうと思っています。

**問** 2年間にわたり発生しました大水害により、大嶺町笹畑と荒川地区においてボタ山のボタが大量に家屋や畑を襲いました。住民の安全・安心の策についてお伺いします。

**答** ボタ山は安定性に欠けて崩落しやすいという特徴があることから、鉱山保安法等の法令によりまして鉱業権者にその維持管理が義務づけられています。ボタ山の周辺にお住まいの方々の安全・安心のため、鉱業権者に適切な指導、助言をしっかりと今後行っていきたいと思っています。

**問** 白岩の炭鉱住宅の跡地を市が取得し、有効活用していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**答** 市においては現在のところ、用地取得、利活用の計画はありません。雑草が生い茂った状態については、所有者と土地の適正管理について協議をしたいと思っています。

**問** 炭鉱の閉山に伴い、豊田斜抗、美祢斜抗の坑内水

が標高の一番低い麦川抗に集まり、膨大な地下ダムとなりました。そして坑木等が腐り硫化水素が発生したため、悪臭が発生し、雨季には川底に真っ黄色な硫黄が付着しています。今年度酸化実験を行うということでしたが、実験結果を踏まえて、今後の対策についてお伺いします。

**答** 今年度、液膜式酸素供給装置を現地に据え付け、実験を行いました。この報告書が出まして、それを十分に精査して、どれほどの投資をすればできるかということを確認させてもらいたいと思っています。



### 2、ふるさとを誇りに思う人材の育成について

**問** ふるさとを誇りに思うためには、ふるさとをよく知ることが大切だと思います。

それぞれの校区にある埋もれた宝、自慢できる人物探しを地域をあげてやってみてはどうでしょうか。そしてふるさと自慢の発表会を行い、「子どもふるさと大使」を誕生させてはいかがでしょうか。

**答** 現在、市内のすべての小・中学校において、ふるさとへの誇りを育むための教材として小学校社会科副読本「ふるさと美祢」を3年生から6年生まで活用しています。

ふるさと学習や地域での活動・体験を通して、ふるさとへの誇りと自信をもって将来への夢や希望の実現に向かって羽ばたくことができる子どもたちを学校、家庭及び地域が連携して育ててまいりたいと考えています。